



# 畜産研通信

## 岐阜県畜産研究所の情報紙

- ◇ 各研究部のトピックス
- ◇ ふれあい報告会のお知らせ
- 飛騨牛研究部、酪農研究部

### 「牛への飼料米給与試験を開始」

飛騨牛研究部及び酪農研究部では農林水産省委託プロジェクト研究として牛における飼料米給与技術の開発に取り組んでいます。試験の狙いは飼料米を給与した場合にトウモロコシ主体の餌と同じような牛肉を生産できるか、泌乳成績が得られるか、また飼料米の給与量の上限はどのくらいであるか等です。

飛騨牛研究部では過去に飼料米の給与試験を実施しており、トウモロコシの代替として濃厚飼料中に飼料米を30%配合した餌で肥育を行った結果、従来の餌と同等の成績が得られました。今回はさらに、50%まで配合率を高めて試験を行っています。



破砕した籾米



泌乳牛への給与試験

酪農研究部においては乳牛への給与試験を行っています。20年度に行った乳牛での飼料米の消化試験では籾米をそのまま給与すると消化率が良くないことが分かりました。そこで籾米を破砕あるいは粉碎して、トウモロコシの代替として濃厚飼料の30%あるいは40%（実量として約4kgから5kg）給与しています。

## □ 養豚研究部

### 「アンモニアリサイクラーの活用について新聞報道されました」

養豚研究部と東海乳酪株式会社が共同開発したアンモニアリサイクラーを活用し、豚ふんの高付加価値ペレット堆肥の開発を目指します。これは、農林水産省のプロジェクト研究により（独）中央農業研究センターから委託を受けた研究開発で、地域内資源の循環利用を図るため養豚農家へアンモニアリサイクラーを設置し、実証試験を行います。養豚農家へのアンモニアリサイクラー導入は、今回が初めてです。



## □ 養鶏研究部

### 「優良で希少な鶏遺伝資源の保存と活用」

遺伝資源の保存は、生物の多様性の保全及び持続可能な利用の観点から重要であるとともに、悪性の伝染性疾病によって貴重な品種や、育種素材が消滅することを予防する手法として位置づけることができます。

鳥類においては高病原性鳥インフルエンザ等の脅威に直面しているにも関わらず、その構造やサイズの点から受精卵の直接的な凍結保存が困難とされています。

このため岐阜県では家畜改良センター岡崎牧場、愛知県、三重県、民間の研究機関との共同研究により鶏に関する精液凍結技術やキメラ化技術等を組合せ、凍結精液と凍結胚盤葉細胞を活用した鶏の保存及び復元技術の開発とこれら遺伝資源の供給体制（ジーンバンク）の構築を目指し取り組んでいます。

これまでに家畜改良センター岡崎牧場が鶏の凍結精液作製の簡易な手法としてメチルアセトアミド・急速ストロー法を開発していますが、養鶏研究部ではこの手法を改良し、当部で保有している優良鶏種や希少な鶏種（奥美濃古地鶏の原種鶏、赤玉優良鶏、岐阜地鶏など）の受精率の高い凍結精液と従来の戻し交配を用い、短期間で原型以上もしくは原型に近い復元を行う実用性の高い手法の確立を目指しています。



鶏舎内で精液採取、液体窒素で保存



凍結保存した精液を用いて誕生した雛

## □ 平成21年度岐阜県畜産研究所ふれあい報告会について

- 日時：平成21年11月13日（金）10：00～15：40
- 場所：岐阜県農業技術センター（岐阜市又丸729-1）
- 内容：各研究部からの研究成果の報告
- 講演&シンポジウム：「飼料用米に関して」（仮題）
- 問合せ：飛騨牛研究部（Tel 0577-68-2226）



- 飛騨牛研究部 506-0101 高山市清見町牧ヶ洞 4393-1  
Tel 0577-68-2226 Fax 0577-68-2227 Email box@beef.rd.pref.gifu.jp
- 酪農研究部 509-7601 恵那市山岡町久保原  
Tel 0573-56-2769 Fax 0573-56-2974 Email box@dairy.rd.pref.gifu.jp
- 養豚研究部 505-0037 美濃加茂市前平町 3-8  
Tel 0574-25-2185 Fax 0574-28-4132 Email box@swine.rd.pref.gifu.jp
- 養鶏研究部 501-3924 関市迫間 2672-1  
Tel 0575-22-3165 Fax 0575-22-3164 Email box@poultry.rd.pref.gifu.jp